

# 隠岐島後の自然杉

北村 清

## 1. はじめに

隠岐島後には、岩倉の乳房杉、玉若酢命神社の八百杉、中村のかぶら杉など観光名所として自然杉が多く残っている。生物多様性研究分科会では、県内でも数少ない自然杉の観察を目的として、隠岐島後に1泊2日で調査に行った。本稿では、隠岐の自然杉の特徴について隠岐ジオパークガイドや当分科会の佐藤アドバイザーのお話を中心にとりまとめた。

## 2. 日本列島における杉の特徴

杉は、全国で植林されており、馴染みのある木であるが、天然林を見ることは稀である。天然杉は日本の固有種であり北海道を除き本州、四国、九州に広く分布している。一般的に太平洋側に分布する「オモテスギ」と日本海側に分布する「ウラスギ」、九州地方に分布する「ヤクスギ」の3種類に分かれている。

隠岐の杉は最終氷河期（約2万年前）に島根半島と陸続きとなり、対馬暖流の影響で本土より比較的暖かかった隠岐島に、ウラスギが避難したと言われている。

ウラスギの特徴として、一番低い枝が雪の重みで下方にたわんで新たな株となることが知られている。

(写真-1)



図-1 日本列島における杉の分布



写真-1 隠岐自然回帰の森で撮影

### 3. 玉若酢命神社の八百杉

玉若酢命神社の隨身門をくぐると右手に樹高約28m、根元の周囲約20m、樹齢は2千年を超えると言われていた県下一の八百杉がある。3年前の4月に台風並みの低気圧により幹が裂けてしまったが、今回、私たちが見に行った時はその痕跡が全く判らないように修復されていた。佐藤氏のお話によれば、幹の中は空洞となっており、以前にも落雷により幹が裂けたことがあり、それも修復がされている。(写真-4)

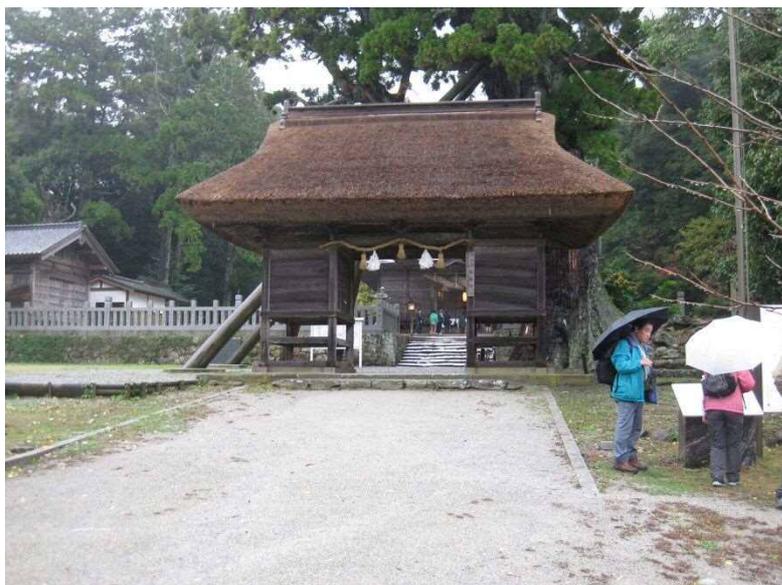


写真-2 玉若酢命神社 隨身門

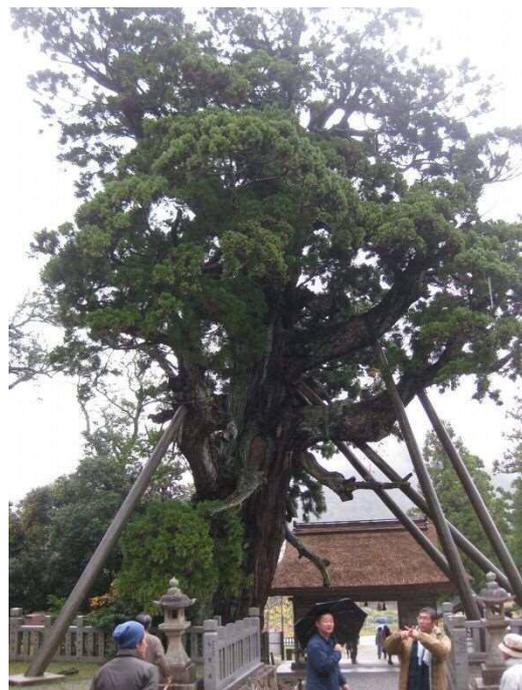


写真-3 八百杉



写真-4 補修跡

#### 4. 岩倉の乳房杉

樹齢は約 800 年と言われており、樹高約 38m、幹囲 11m、主幹は 15 本分岐し、その分岐部分から大小 24 個もの乳房状の根が垂れ下がっている。おそらく、近接する複数の杉がいっしょになって 1 本の木となる合体木ではないかと言われている。周辺には岩倉風穴があり、夏でもひんやりとした空気に包まれ、神秘的な雰囲気が漂っている。今回行った日は、雨で辺りが霧に覆われて、特に幻想的な姿であった。



写真-5 岩倉の乳房杉

#### 5. かぶら杉

樹齢 600 年と伝えられるこの巨木は、根本から 1.5m ほどのところで 6 本の幹に分かれている。なぜ、このような形になったのかは不明であるが、全国的には同じような形をした杉が各地にあるようだ。中村に通じる県道 316 号線沿いにあり結構車が通過するので見学の際は車に注意する必要がある。



写真-6 かぶら杉

## 6. 隠岐自然回帰の森（杉の自然林）

今回のメインイベントである鷲ヶ峰登山道には杉の自然林がある。当日は、雨の中大満寺山方面から出発し、鷲ヶ峰山頂に登って中谷駐車場に下るルートであった。山頂に登る最後の10mは岩登りということもあって、最後まで登ったのは、今回参加14名中、大嶋さん、森脇さん、岸根さんの3名であった。



写真-7 いざ出発



写真-8 最後の岩登り

下山する途中に杉の巨木林がある。杉は全部で約800本あり樹齢は約350年でほぼ同じであることが判明している。ガイドの方のお話では、当時山岳信仰の修験者が植えたとの言い伝えもあるようだ。



写真-9 杉の巨木林の中を下山



写真-10 杉の巨木林

## 7. おわりに

普段何気なく見ている杉も生育環境やその成り立ちの違いによりさまざまな形となり、隠岐では観光スポットとして重要な位置づけとなっている。隠岐ジオパークは、2年前に加盟認定されスタッフも充実してきているが、当分科会としても側面からサポートして行きたい。